

編集後記

本号の巻頭言は「小説家」の加賀乙彦氏である。若い方は精神医学の専門誌になぜ小説家が寄稿されるのか不思議に思われるかもしれないが、氏はフランス精神医学の紹介や拘禁精神病研究などで知られる精神医学者でもある(あった)。昔は文学と精神医学との関係は親戚のように近かったが、今では病跡学が残り火のように燐っているだけになってしまった。もともと精神医学は人間の行動やこころへの関心から始まったから、根は小説と同じである。精神医学独特の問診や面接にその名残があるが、構造化面接といった物語性を排したものと症状を拾い集め軽重をつけていく操作的診断が重視されるようになってから、「語り」としての面接は影が薄くなってしまった。

こうした流れの大きな弊害は、生き生きとした患者像や疾患像を丸ごとつかんだりイメージすることができにくくなっていることではないだろうか。以前は生育歴や病前性格、それらと環境とのかかわりから、その人の内面世界を想像し、理解しようとする中で診断をつけ、治療の導きの糸となるものを見いだそうとしたものである。「教頭ワグナー」や敏感関係妄想などはその典型であろう。しかし今では、ヤスパースの郷愁反応のような理解しやすいものまで忘れ去られてしまっている。「郷愁」という言葉はもはや日本では死語になっているが、現代の精神科医にとっても大切なことは、郷愁の想いが放火を引き起こすまでの内面を想像し理解しようとする姿勢であろう。暗闇は闇のまま残せばよい。

診断のマニュアル化に加え、治療目標のクリニカルパス化、在院日数の短縮化によっても、診立ての一元化が進み、1人の患者さんを多面的かつ全一的に把握しようとするのは困難になってきている。部分を寄せ集めても全体にはならない。こうしたとき、小説は大きな力となる。優れた小説は精神医学の宝庫である。

さて、多能的という、本号の「展望」欄では貝谷久宣先生による「非定型うつ病」が詳細に述べられ勉強になった。ここからさらに、非定型ということは定型があるということになる…では定型とは何か?…など、あれこれ考えをめぐらせてみることも、多能的に診ていくことにつながろう。

編集後記の気楽さから思いつくまま記したが、それにしても今年の夏は暑い。

(M.I.)

■ 編集委員

朝田 隆

飯森真喜雄

井上 新平

小島 卓也

小阪 憲司

松本 英夫

松岡 洋夫

三國 雅彦

(ABC 順)

精神医学 (第52巻 第9号)

2010年9月15日号 (毎月1回15日発行)

1部定価 2,625 円 (本体 2,500 円+税 5%)

2010 年年きめ予約購読料 30,600 円・電子ジャーナル閲覧オプション付 39,800 円 (税込, 送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 編集室直通 (03) 3817-5711 (担当) 三由・山崎

Fax (03) 3815-7802

E-mail seishinigaku@igaku-shoin.co.jp

URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/seishin/>

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込 (株) ハイブリッジエージェンシー

電話 (03) 3814-0089

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は(株)医学書院が保有します。

・ JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3515-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。